

JAIST グッズ創生記

國藤 進

北陸先端科学技術大学院大学 名誉教授

1 あらまし

イギリスの創造性教育学者 Marilyn Frier に頼まれ、日本独自の創造技法である KJ 法を教えるワークショップをイギリスで行なった。その二回目は西スコットランド大学で、日本から参加した男性はスコッチを、女性は化粧品セットをお土産にもらった。いずれも大学のブランド名が入った大学グッズであり、印象ふかいお土産であった。

帰国後考えたのは、JAIST も創設時には JAIST ネクタイや JAIST Cup があったのに、いつの間にかそれらを目にすること無くなったという事実である。

そこで一念発起し、JAIST グッズを創る講義を企画した。最初は当時話題となっていた 3D プリンタで、学生と一緒に JAIST グッズらしきものを各種プロトタイプした。当時は 3 研究科体制だったので、3 研究科を意識したなかなか立派なプロトタイプを作成したが、翌年から 9 領域制になり、そのままでは商品にふさわしくないものとなった。

2 「地域創生論」講義と連動

幸いにも筆者は「地域創生論」講義という夏季集中講義をもっていた。地元の特産品を使い、JAIST 教員や修了生・在校生がお土産にしたいモノを創作することにした。

2015 年度は能美市宮竹町「宮本酒造」と協力し、宮本酒造の純米吟醸「夢醸」をベースに、JAIST 初の公認グッズである純米吟醸「先端」を院生の原田 祥がラベル製作した。ラベルのネーミング、デザイン、PR 戦略等で工夫し、JAIST のもつ「デザインの力」でどれだけ売上げが伸びるかを模索した。デザインは JAIST 近くの「七ツ滝」の“二の滝”を撮り、フォトショップで加工した。国税局のチェックがあり、原田は作り直しを要求された。このお酒のコンセプトは「このお酒を飲んで、先端科学

技術に対する夢を語らい、JAIST でその夢を醸成し実現する」である。「先端」は「地酒で乾杯！」の風土に合い、フルーティでおいしいと各種イベントでふるまわれ、好評・販売中である。



図1 「七ツ滝」の“二の滝”



図2 純米吟醸「先端」

2016年度は能美市寺井町の和菓子屋「日本堂」高田敦司社長の協力で、世界初の「もちもちカステラ」を創作してもらった。このカステラは“日持ちすること、地元の特産品であるユズを使うこと、西洋の知と東洋の知の融合、ハラル対応、世界初の創作菓子”という筆者の提案するコンセプトのもと、高田社長の熱意で製造された世界初の「もちもち感、しっとり感」のある創作カステラである。多くの女性陣の三回の試食に伴う、評価のフィードバックを経て改善・完成した。「地域創生論2016」終了後、院生の岡田侑里のラベル提案を参考に、プロのデザイナーが商品のパッケージを完成した。このカステラのパッケージには JAISweets というロゴが記載されている。「もちもちカステラ」はモチモチ感を出すため、デザインの絵は能美市の特産品である国造ユズの花と



図3 三種の創作菓子の試食会



図4 記者会見（左から高田社長,岡田,國藤）



図5 もちもちカステラ

カカオの花である。三度の試食会や試行錯誤を経て完成した。その製造方法は企業秘密とのことである。約1ヶ月も日持ちするので、海外出張のお土産にも利用されている。

3 あとがき

今年は JAIST 創立 30 周年であり、修了生も修士課程 6752 名、博士課程 1194 名となっている。彼らを中心に教員、在校生が購入したくなるような JAIST グッズの創成記でした。

男性用の JAIST グッズとして「先端」、女性用 JAIST グッズとして「もちもちカステラ」を創作した。それぞれ能美市宮竹の「宮本酒造」及び能美市寺井の「日本堂」から購入できる。

